

CITY TERRACE - HOUSE

かつての日常の風景 — 道端での焚き火、井戸端で話し込む人々、路地で遊ぶ子供たち。

そこには、家族や住民同士のコミュニケーションや街との関わり方にあった。美しい景観とは、単に建築物の美しさだけではなく、そういったことを感じ取れる街つまり、人々の賑わいが街全体にも溢れかえる街なのではないだろうか。

住宅にテラスを挿入する。
このテラスは、すべての部屋と様々な関わり方を持ち、生活の基点となる。それだけではなく、この内庭が住宅内のアクティビティを街へ発散させるステージであり街全体と関わり合うためのコミュニケーションツールとなるのである。

街を歩いていくと、ふとした瞬間に道からテラスまで一気に視線が抜け、視線の先には家族が集う姿、隣人と話しこむ姿、休んでいる姿が、明るい日差しの中に見られる。家族やそれを取り巻く人々の賑わいは、道やそれに沿う建物の表面だけに留まらない。賑わいが街全体に浸透していくようなきっかけとなる「テラスのある家」を構想する。

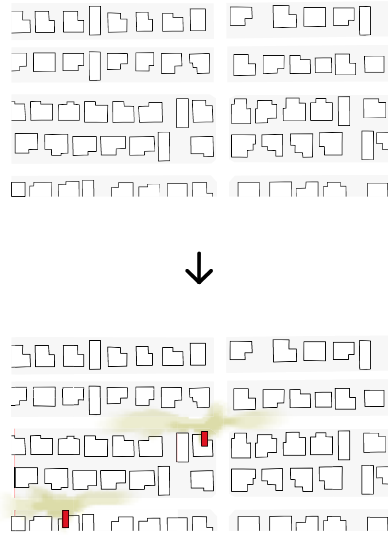


diagram 1

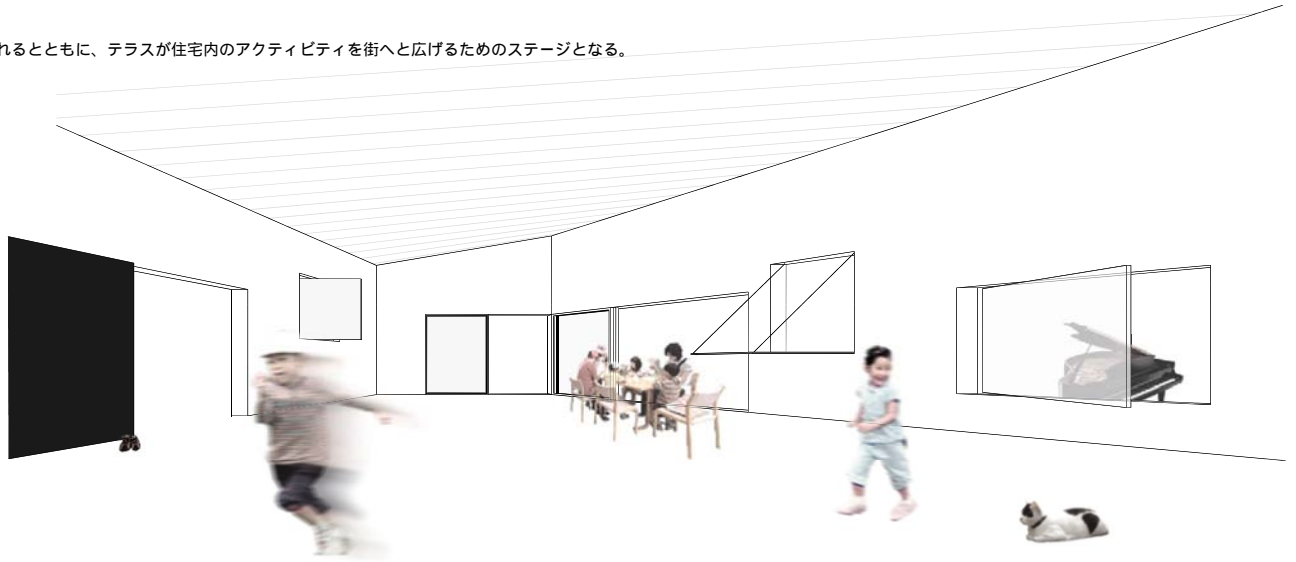
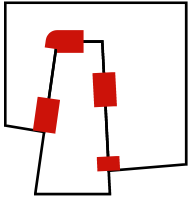
住宅内のアクティビティを街へと発散させるような家が増えていくことで、家族とそれを取り巻く人々との賑わいが街にも浸透していく。やがては、こうした開かれた住まいが増え、それらを紡ぎ合っていくことで、街が賑わいのある街美しい街へと変わっていくのである。また、街全体でのコミュニケーションが増え、住民同士がゆるやかな関係を構築することで、住民の視線が行き届いた防犯性の高い住宅地となり、より良い生活環境の場となる。



diagram 2

テラスを取り巻く壁の開口を開くことで、各々の部屋がより開放的な空間が生まれるとともに、テラスが住宅内のアクティビティを街へと広げるためのステージとなる。

OPEN



CLOSE

